

「介護旅行をぶっとばせ！」

名古屋市西区平出町

社会福祉法人和進奉仕会 特別養護老人ホーム平田豊生苑

介護職

落合大門 成瀬雄一

私たち豊生苑では「あたりまえをあたりまえに」をモットーに、非拘束はもちろん、閉じ込めの場所にならないように「居室に鍵はしない」、男性・女性の性を守る為、男性は男性、女性は女性のための介助をする「同性介護」、日常生活にユニホームは着ないので「職員は私服で介助」、使い慣れた物を使う「家具の持ち込み」や苑内での「お通夜・お葬式」などがあります。これまで家での住み慣れた暮らしを施設にうつただけで「自分の家での延長」として住人さん（豊生苑では利用者様のことを住人さんと呼びます）に過ごしていただいています。これらは本来あたりまえのことですが、他の施設では特別なことかもしれません。

今回は、こうした豊生苑の暮らしのなかで毎年行っている「一泊旅行」を主題に併せて紹介したいと思います。

ところで、みなさんは「介護旅行」をご存知でしょうか。最近話題のサービスで、インターネットやテレビ等でも紹介されているので聞いたことのある方も多いかと思います。これは、介護士やヘルパーなどの有資格者がユーザーあるいは旅行会社がプランニングした旅行や外出に同行し、介助・介護を行うという画期的な事業です。高齢者やそのご家族からの「旅行へ行って思い出を作りたい」「お墓参りに行きたい」「日帰りでもいいから出かけたい」という声も年々多くなり、利用される方は増えてきています。ただ、どうしても支援や介護が必要となるとたとえ家族が一緒でも不安や心配はあります。ましてや家族のいない方なら尚のこと。そんな時、安全・安心して介護が必要な方でも旅行が楽しめる…そんなサービスが「介護旅行」です。残念ながら現在のところ介護保険適用外ですが。

さて、私たち豊生苑は今回、演目名を「介護旅行をぶっとばせ！」として真っ向から疑問を呈します。「介護旅行」——もちろん誰だって旅行は楽しみですし、いくつになってもわくわくするものです。

でも、「旅行」ってそんな特別なことなのでしょうか。そんなに身構えなくてはいけいのでしょうか。

介護旅行を利用して思い出を作り、心から楽しむ。それはとても素敵なことで、もっと普及して欲しいと願います。しかし、本当に旅行はそんな切り取られた枠組みのなかで行

うことなののでしょうか。本当は日常の延長上にあるイベントであり、生活の中の「大きな楽しみ」の一つなのではないのでしょうか。

豊生苑では介護保険が始まる前から、旅行に参加したいという住人さんやご家族の声を受け、近隣の高齢者の皆さんもお誘いして一泊旅行を毎年行ってきました。寝たきりの方も胃ろうの方も、入院中でも外出許可を頂いて参加したこともあります。職員は全て研修として参加します。宿泊先や観光地にバリアフリーなどの配慮がないケースも多くありましたが、団体旅行という強みもあり、職員が力をあわせて車イスを担ぐという通称「おみこし」が私たちの旅行では恒例行事になっています。景観の兼ね合いもありますが、温泉や神社にスロープがあることは少ないのです。もちろんそんなことは些細なこと。みんなわらって住人さんを担ぎ階段をのぼります。

私たちの旅行では住人さんを中心に、家族や職員と酒を酌み交わし、カラオケを歌い同じ部屋で寝ています。

同時に、バスや飛行機の座席に住人さんに移乗し、役所で文字が書けなければパスポートを代筆し、夕餉に刺身が出ればその場で刻んで提供するといった、たくさんの方の困難に住人さんと、また地域や旅行先のみなさんと力をあわせて取り組んできました。そうしてたくさんの方の笑顔と思い出を作ってきたのです。でも、それが生活だと私たちは考えています。

「諦めていた旅行に行けた。ありがとう」

その声は、「介護旅行」でも私たちの「一泊旅行」でも聞こえる言葉です。

でも、できれば私たちは「次はあそこに行きたいな」そう言ってもらいたいのです。

なぜって旅行は日常生活には欠かせないスパイスですし、日々の暮らしのお手伝いが私たちの仕事ですから。

よろしければ、みなさんも一緒に旅行にいきましょう。実費のみ必要ですが、遠慮も気兼ねも要りません。旅は道連れ、多い方がきっと楽しいと思います。

……今後の先進的な取り組みや新しいサービスが何をもたらすのか。これからも制度は改善され、バリアフリーやユニバーサルデザインが浸透していく。便利なものが発明されサービス技術が洗練される。それはこれからも必要で、考え推進すべき課題です。

ですが、その前にあたりまえの生活は何かをもう一度感じとるべきではないのでしょうか。

暮らしのなかで誰でも問題を見つけることができ、それを誰にでも相談できる。そして、みんなで考え工夫する。それはこれまで家族や友達と、あるいは地域や職場で行ってきた日常生活なのではないのでしょうか。

問題を助け合いに。すべての生活する人たちが、あたりまえに暮らすために。

——私たちは「特別」を、まずは介護旅行をブッ飛ばします。

豊生苑と一泊旅行



(同性介助・入浴)



(苑内での行事)



(苑内でのお葬式)



(ディズニーランドに行ってきました)



(一泊旅行・カラオケを一緒に)



(一泊旅行・宴会で呑み交わす)